

平成23年度 第二亀戸小学校経営計画

江東区立第二亀戸小学
校長 田中 孝宏

人と人がつながる、明るく楽しい学校

教育目標

健康でたくましく生きる子ども
自ら学び進んで実行する子ども
心豊かで思いやりのある子ども

経営の理念

子どもたちが、人と人とのつながりを大切にし、進んで学び・健康な心と体を育てる
学びの場を教職員が一丸となってつくる学校

1. 誰に対しても、その人を大切にし、思いやりある心づかいができる児童の育成を目指す。
2. 自分で考え学び、表現できる児童の育成を目指す。
3. 健やかな心と健康な体を育て、たくましく生きる児童の育成を目指す。
4. 地域・保護者と連携して、より良い学びの環境をつくりだす。

中期目標

1. 豊かな心の育成
 - (1) あいさつなどの基本的な生活習慣の定着
 - (2) コミュニケーション能力の向上
 - (3) 道徳（心の）教育の充実
2. 学習意欲の向上
 - (1) 問題を発見し自ら考えまとめる学習
 - (2) 言語学習の充実
 - (3) 学習習慣の確立
3. 健康な体の育成
 - (1) 日常での運動習慣の確立
 - (2) 食育・健康教育の充実
 - (3) 基本的な生活習慣の定着
4. 地域との共育
 - (1) 幼稚園との連携
 - (2) 地域人材の活用
 - (3) 学校評価によるPDCAサイクルの確立
 - (4) 安全・安心に集える場の確保

具体的方策（重点目標）

1. 豊かな心の育成

取り組み目標	具体的な方策
(1) あいさつなどの基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・オアシスサ運動の徹底をするために、校長講話にあいさつの大切さを重ねて知らせ、毎朝の校門、通りすがり、下校時など声かけをして実践を促す。 ・ルールやマナーの基準となる内容を「亀戸思草」としてまとめて教職員で共通理解を図り指導にあたる。 ・聞く話すトレーニングができるよう、スキルを重視した授業内容を研究する。 ・異学年交流、様々な人との交流などの活動場面を増やしコミュニケーション機会を増やす。 ・道徳的な事象や社会的な出来事に対して、自分の考えや心の様を問わせ、その内容を互いに話し合い、深めさせる。
(2) コミュニケーション能力の向上	
(3) 道徳（心の）教育の充実	

2. 学習意欲の向上

取り組み目標	具体的な方策
(1) 問題を発見し自ら考えまとめる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・課題発見—調査—まとめ—発信という授業スタイルが身につくよう授業観察時、自己申告時に改善を行う。 ・年間指導計画をもとに学年ごとに指導内容の工夫や目的を明確化する。 ・俳句を中心とした言語活動を学校生活の様々な機会に盛り込んでいく。 ・自己申告に個々の児童に応じた家庭での学習習慣づけの方策を明記する。
(2) 言語学習の充実	
(3) 学習習慣の確立	

3. 健康な体の育成

取り組み目標	具体的な方策
(1) 日常での運動習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くことを奨励し、遠足や移動教室などの行事に長く歩く体験を盛り込む。 ・体力調査の結果から、各個人の目標を定めて体力向上カードを作成し、定期的に測定をして自分の体力の向上への意欲を高める。
(2) 食育・健康教育の充実	

・各学年で自ら栽培した野菜を食べる体験を通して、食に対する関心を持てるようにする。

・すこやか会議や保健の授業を通じて、「ハッピー貯金通帳」をつけ、自らの発育状況を数値で確かめ、健康に暮らすための知識を得る。

4. 地域との共育

取り組み目標	具体的な方策
(1) 幼稚園との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園との交流を各学年で取り入れ、実践する。 ・地域にある施設や地域の価値が持つ技能を生かし、授業にゲストティーチャーとして招く授業を計画する。ボランティア組織を複数立ち上げ、学校を支援する組織につなげる。 ・外部、内部などの評価アンケートを行い次年度計画に生かすようにする。 ・東日本大震災の教訓を生かし、避難訓練の内容や震災救援のシステムを地域と共に見直し、それに沿った訓練を行う。
(2) 地域人材の活用	
(3) 学校評価によるPDCAサイクルの確立	
(4) 安全・安心に集える場の確保	

評価指数

努力

成果

1. 豊かな心の育成

- ・毎日朝校門に立ち、あいさつを実践する
- ・亀戸思草をまとめ、講話や保護者会、ホームページなどで繰り返し説明する。
- ・「ボランティア手帳」に亀戸思草を書き入れる。
- ・亀戸思草のポスターを作る
- ・教職員が、コミュニケーション能力を身につけ、そのスキルを教えられるようにする。
- ・新聞記事などを題材とした心の教育に生きる内容を毎日チェックし、教員に示しNIEの手法を取り入れる。
- ・人権教育の標語や命の教育の作文などに作品を出品する。

- ・二亀の子はよくあいさつできると地域からの評価を得る。(80%)
- ・亀戸思草の意味や内容が保護者・地域・児童に浸透する。(70%)
- ・異学年の交流を図った授業を各学年2回以上行う。
- ・新聞記事やニュースなど情報に対して広く見聞を広め、批判的に情報を取り入れ、考えさせる。(各学年試行)
- ・人権の大切さや命について考えを表現できる児童を増やす。(80%)

2. 学習意欲の向上

- ・各教員に対して、授業観察年2回・授業見学週3回以上を行いチェックする。年間指導計画の適正な実施がされているか観察を行い、修正や追加を随時行う。
- ・講師に小山先生を年間通し、お願いし、3.4年の授業を行うほか、教員の研修を行い、言語に対する感覚を養う。
- ・講話などの折を見て、言葉についての話をし、詩歌を紹介し、校長室前に掲示する。
- ・チャレンジ「カメ塾」を校長室に開き、九九や地名の暗記、音読などの検定を行う。

- ・児童から授業が工夫されていて楽しい、保護者から授業改善の努力が見られるとの評価を得る。(70%以上)
- ・春夏秋冬年間24時間の授業を行う。100周年に前学年の俳句を掲示するほか、新聞やイベントなどに各学年が作品を投句する。
- ・年間38回の講話に1詩歌を紹介し、掲示する。
- ・5月より月2回以上行う。

3. 健康な体の育成

- ・体力向上の目標を各児童に定めさせ、体育の授業や行事などで向上を図る。
- ・学校公開や評議委員会にあわせ、外部人材を呼ぶなどの工夫をし、健康や食に対する関心を高める。
- ・遠足や移動教室など行事に歩く活動を倍以上取り入れる。

- ・体力テスト、鉄棒、なわとび、持久走などの取り組みに対して、「にかめすこやか表彰」を行う。
- ・すこやか会議に食の内容を含め、保護者の関心に沿う内容に変え、参加率を20%増やす。
- ・遠足地の変更、万歩計の導入をし、児童の歩く機会を倍にする。

4. 地域との共有

- ・幼稚園との連携を各学年年一回以上取り入れる。
- ・えこっくる江東、科学未来館、スポーツクラブ、中川船番所、香取神社、江戸切子組合の協力を得て、授業や研修を行う。
- ・各行事などの実施案に災害時の対応についての記述を入れ、緊急時の対応の共通認識をもたせる。

- ・幼稚園との連携をしている。(80%)
- ・3.4年がえこっくる江東との緑カーテンでの連携、5年が科学未来館とのエネルギー学習での連携、水泳でのスポーツクラブとの連携、食育や地域の歴史での香取神社の協力、5年の江戸切子体験などを行う。
- ・災害時の対応に気をつけている(80%)

②にこにこ笑顔で

よ〜く③かんがえる

④めっちゃめっちゃ元気な ニ龜っふ

心がけ

- ・できるだけ一日一回は教室を見回って子どもの様子を見る。
- ・校長室をクールダウンの場所として開いていく。
- ・情報交換を密にし、開かれた学級をつくる。
- ・教職員の良い言語環境や校内の明るい雰囲気づくりをする。
- ・まめに、報告連絡相談ができるようにする。
- ・全員が学校運営をしている気構えを持てるようにする。
- ・子どもの目標は、教師の目標でもあることを徹底する。